

行願寺ぎやうくわんじは下御霊しもごりやうの南に隣る。「一名革堂かうだう」天台宗にして本尊十一面千手観音は長八尺の立像、行円上人ぎやうえんの作なり。「西国第十九番の巡礼所、又洛陽巡りの第四番なり」加茂明神かもの石塔「五輪の塔婆にして高壹丈余なり、塔前に鳥居あり、行円上人ぎやうえんこれを建る」当寺の開基行円上人ぎやうえんは原鎮西の人なり、寛弘二年に皇城に遊び、頭に宝冠をいたゞき身には革服を着せるゆゑ、都の人革上人かくと呼り。行円ぎやうえんつねに千手大悲陀羅尼せんじゆだいひだらにを持し、良材を求め観音の像を刻ん事を願へり。ある夜の夢に壹人の沙門来り、霊木を送らんといひて覚ぬ。翌朝果して一僧来り告げるやうは、鴨社の傍に苔蒸たる槻樹あり、六斎日毎に千手の神咒を誦する声聞へぬ、むかし鴨太神宮かものだいじんぐうこの樹下に天降り給ふとぞ、則行円ぎやうえんこれを尋ね求め、則神官しんくわんに乞うけ菩薩の像をきざみ、行願寺を営て安置す、これ当寺の本尊なり。又行円革服ぎやうえんを常に着けるゆゑ、此寺を革堂かくだうと称す。其後行円ぎやうえんの弟子仁弘法師にんこう、此余材を得て又尺八の像を作り、西山良峰寺にしやまよしみねでらの本尊とす。当寺初は一条通新町の西にあり、故に一条革堂かうだうといふ。